

平成18年10月20日(金)に

二万谷川排水機場の防水扉の操作訓練を実施しました。

排水ポンプ設備は大雨時などに、内水被害が予想される時、確実に稼働することが求められています。「二万谷川排水機場」は完成後25年経過していますが、敷地まで水が来たことはありません。しかし、近年の異常気象による急な出水等で、排水機場が水没、稼働しなかった為、被害が発生した例もおきています。もし、このような状態になった時でも排水機場内への浸水を防ぎ、速やかに排水が行えるよう、常設の防水扉の操作訓練を行ったものです。

当日は、委託先の倉敷市や操作員など8名が参加し、防水扉の操作手順や所要時間などを確認し、有事の際の対応に万全を期したところです。

訓練状況写真



天井クレーン

【屋内の天井クレーンを使用し閉扉操作を行う】



【開扉状況(通常時は上に吊り上げている)】【閉扉完了状況(外観)】



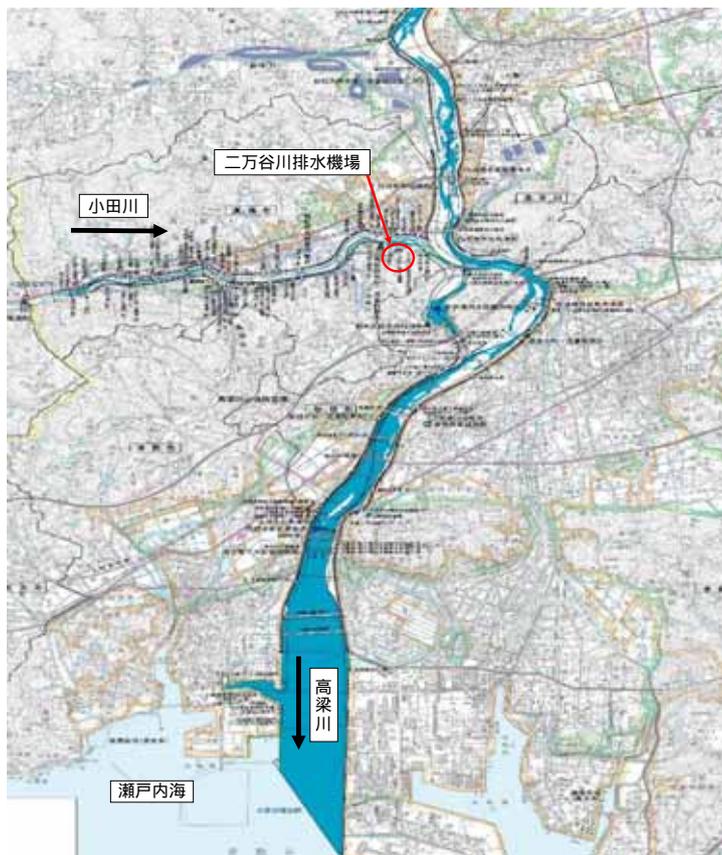
防水扉

設計対象水位



排水ポンプ

【排水ポンプ設備:排水量 $1.5\text{ m}^3/\text{s} \times 2$ 台】
(毎分 90 m^3)



【二万谷川排水機場位置図】